

## 令和6年度 第3回鈴鹿市立加佐登小学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和6年 10月 22日 (火) 13:30~15:00

2 場 所 加佐登小学校 少人数教室

3 あいさつ

(委員長より) 夕方、暗くなるのがものすごく早くなってきている。中学生の子どもたちの下校時間が一番見えづらく、運転中ハッとすることもあってはならないだろうか。通学時の安全確保のために、登下校時の見守り等、今後もご協力願いたい。

(学校長より) 本日は前半に授業参観をお願いしたい。教員の授業の様子や子どもたちの様子、校内の様子を観ていただきたい。また、本日は出張で教員不在の学級もあるため、自習をしている子どもたちの様子もあわせて観ていただき、感想や意見等をいただきたい。後半に、全国学力・学習状況調査についてご報告させていただきます。そのことも頭に置いていただき授業参観をお願いしたい。

4 議事

(1) 授業参観後の感想・意見交流

○非常に静かで落ち着いている雰囲気であった。低学年の教室も静かに学習しており、日頃から良いご指導をしてもらっていると感じた。

○掃除の時間に雑巾がけをしている児童の姿を見かけたが、今どき、家庭でも雑巾を使う機会が減ってきているので、学校でこういった指導をしていただけるとありがたいと感じている。

○授業中、自分の意見をグループでも交流するなどしながら色々な力を伸ばそうとしていることが感じられ、しっかり指導していただいていると感じた。

Q 1年生は単学級のため在籍人数も多く、賑やかな雰囲気であった。今後、学年が上がっていくと、学級の人数が多い中、先生たちの負担の度合いなど、どのように変わっていくと思われるか？

A 1年生の1学期間は、学校生活に慣れ、生活の流れをつかむことが目標の一つとなっている。低学年で人数が多いと、一人ひとりの子どもにきめ細かな指導、支援が行き届かない現状がある。今年度の1年生は、1クラスに30人が在籍し、人数も多いことから、担任の先生をはじめ学習支援員等、複数の大人が授業だけでなく学校生活のあらゆる場面で子どもたちに関わり、きめ細かな指導、支援を行っているところである。

○様々な学年でパソコンを活用しながら授業を工夫してもらっていると感じた。

Q 図書のおすすめ本の紹介コーナーなど、図書室の前の掲示板に力を入れているのがわかった。こういった掲示による効果は、どの程度あるのか？

A昨年度と比べると、今年度は貸出冊数が伸びていない。図書委員会の取組として、全学年の子ども達が、おすすめ本紹介カードを作成、掲示するなどの工夫をすることで、子ども達に図書館に来てたくさん本を借り、読んでもらえるように取組を進めているところである。

○1年生は、モニターを使いながら、子どもたちのおすすめ本の紹介をする学習を進めており、みんなで授業を作り上げている感じがして、いい授業だと感じた。

○トイレがきれいに掃除されており、匂いも全く感じなかった。全体的に整理整頓もきちりとされていると感じた。

○自習をしていた低学年の学級は、自分たちで自覚を持ち、集中してとても静かに一所懸命学習しており、感心した。

○地域コーディネーターとして各クラスを毎日見ていると、クラスごとに特徴があることを感じる。先生や学年の子どもたちのカラーによるものだと感じるが、それぞれに教室環境も工夫されており、楽しく授業が進められていると感じている。

○以前よりも廊下等に様々な掲示物が貼られている。その中には、学習に役立つことなども紹介されており、廊下を歩くだけでも勉強になるのではないかと感じた。（教育委員会より）

○掲示物が工夫されている。3年生は運動会の作文紹介、5年生はタブレットを使った作品の掲示という具合に、発達段階に応じた取組が紹介されており、掲示物からも工夫がうかがえる。

○中学年の発達段階の子どもたちでも、タブレットを驚くほどうまく使いこなしており、感心した。

○各学年にプリンタが設置されており、加佐登小学校独自の教育環境への工夫が伺える。子どもたちが自分の打ち込んだ文章や画像などをディスプレイ越しではなく、印刷し、校正することで、自分で制作した成果物をより良いものにすることができるだけでなく、他の子ども達にも見てもらえるようになっており、子どもたちの達成感の向上にも役立つ取組だと感じる。

○全体的に落ち着いた環境の中で授業が進められていた。指導が行き届いているからだと考える。

## (2) 令和6年度全国学力・学習状況調査について

(学校長より説明)

Q自己肯定感についての課題は、昨年度も上がっていたと思うが、今年も改善の余地があるということは、更に手立てを講ずる必要があるのではないか。友達の良さを認め合う活動をする中で、自分が評価されたことを表現する取組を進めていくと、さらに効果があがるのではないか。

A「自分には良いところがあると思う」の質問に対しては、今年も肯定的回答の割合が低いのが現状である。学校では、昨年度「人権の日」に、それぞれの良

さを認め合う取組を行った。今年度も行う予定である。さらには取り組みを工夫し、課題の解決に努めていきたい。

Q子どもたちの家庭環境は様々だとは思いますが、学校としてはどのように取り組んでいくつもりか？

A様々な人との関わりにより、多様な考え方に触れたり、体験学習の中で様々な経験を積む中で、達成感を味わえる取組を行ったりすることで、自己肯定感も高まっていくのではと考えている。そのため、ゲストティーチャーを招聘した体験学習や消防署など、地域にある公共施設などに出向く校外学習を積極的に活用していきたい。また、まちづくり協議会で実施していただいている子ども対象の取組とも連携していきたい。

Q全校の子どもたち一人ひとりの放課後の生活実態は、どの程度まで把握しているのか？

A一人ひとりの子どもたちの生活実態を細部にわたって調査することまではできていない。

○小学生の場合、多くの子ども達の家庭学習は宿題の時間が大部分だと思われる。全国学習状況調査は、通塾も家庭学習の時間に含めているようだが、その調査方法に果たしてどれだけの意味があるのかと感じる。

○全国平均よりも、本校の学力が低いという結果が出たのは、正直なところショックであった。是非とも挽回していただきたい。親の姿を見て子どもは育っていくので、親が学習に取り組む姿を見せるのも一つの方法と考える。保護者とできる宿題など検討の価値があるのではないか。

○加佐登の子どもたちの苦手としている領域や分野を、重点的に授業の中で復習させていくのもよいのではないか。

○調査結果を見ると、国語よりも算数の無回答率が高い傾向にあった。原因としては、集中力が続かず、長い問題文の主旨を最後まで読み取ることができなかった点もあるのではないかと感じている。したがって、最後まで問題に取り組むことができるための集中力や粘り強さなどの非認知能力を高めていくための取り組みを進めていくことも重要だと考えている。また、基礎学力の定着にもしっかりと取り組んでいきたいと考えている。

Q全国学力調査で出題されるような長文問題には普段から取り組んでいるのか？

A学習の単元の最後に行っている単元末テストには、学力調査で出題されるような長文の問題はあまり見られない。そこで、ワークシートなどを活用して、長い文章を読んで、解答する問題に取り組むようにしている。来年度に向けて、課題が改善できるようにさらに手立てを講じていきたい。また、文章を読む力は、短期間では身につかない力だと考える。したがって、普段から本を読むことを推奨し、活字に触れる機会を増やすなど、息の長い取組を行ってきたい。

- ・全国学力調査における全国平均正答率との差は数ポイントなので、問題数から考えると、あと1問できればポイントが上がるし、できなければその分ポイントが下がるという程度である。したがって、数値だけを見るのではなく、どの学習内容に課題が見られるのかを分析して、その課題を解決していくことが大切である。
- ・児童質問紙の「地域や社会を良くするために何かしたい」という項目が、全国より7ポイント高い結果となっており、地域の中で子どもたちが育てられている表れであり、大いに胸を張っていただければと考える。
- ・早寝早起き朝ごはんの項目はなかなか変化が表れにくい箇所だが、全国平均以上となっており、家庭とうまく連携をとって取り組みを進めていることの成果であると考えます。
- ・家庭学習については、子ども達の下校後の過ごし方を調べると課題が見えてくる。そして、そこで見えてきた課題を地域と共に取り組んでいくとよい。
- ・11月8日（金）に、金沢で全国コミュニティ・スクール研究大会が開催されるが、オンラインで参加できる会場もある。加佐登小のコミュニティ・スクールの今度どのように運営し、地域で子ども達をどのように育てていくのかを考えるにあたって、示唆に富んだ情報も得られるため、ご興味のある方は、是非とも参加していただければと思う。
- ・資料として添付した加佐登小学校の学校だよりは、会議後、じっくり読んでいただければ幸いです。また、このたよりでは、学校の様子や行事について詳しく紹介されており、非常によく分かる内容となっている。ホームページからも閲覧できるので、今後是非読んでいただければと思う。

N:¥002教頭¥教頭2024年度¥1 教育委員会¥3 教育支援課¥が、学校運営協議会¥は  
報告書